

武野の晴月

林羅山

武陵の秋色月嬋娟

曠野平原晴れて快然たり

青青輾破すも轍迹無し

一輪千里草天に連なる

【作者】林羅山（一五八三〜一六五七年）江戸時代初期の儒者。名は信勝、字は子信（ししん）、羅山は号、剃髪して道春と称した。京都

に生まれ、建仁寺（けんじんにんじ）に入り、儒仏を学んだ。十八歳のとき朱子学に志し、次（ついで）で藤原惺窩（せいゐか）に師事する。一六〇五年徳川家康に謁し、重用され幕府の顧問となり、家綱に至る四代の將軍に仕えて、教学や諸制度に参画した。上野忍岡（しのぶがおか）に別荘を建て家塾を開き、のち昌平黌が建てられた。羅山は世襲の大学頭林家（だいがくのかみはやしけ）の始祖となった。著書に「本朝編年録」「寛永諸家系図伝」その他多数ある。明暦三年一月二十三日没す。享年七十五歳

【語釈】\*武野：武蔵野の原 \*武陵：湖南省にあつた郡名で武州ともいふた、武蔵の国に通ずるので江戸の意に用いられた。

\*嬋娟…姿態の品がよいさま、あでやか \*快然…さつぱりしていて気持ちのよいさま \*輾破…車輪がめぐるしきのへること。ここでは月の輪がめぐること \*轍迹…車のわだちのあと。ここでは月の輪だちの光のあと 月影の移つたあと。

【通釈】武蔵野は秋一色で月の光もうるわしい。広々とした平野は明るく晴れわたり気持ちがいい。月は青い空をまるで車輪がめぐる様子に度（わたし）ってゆくが、そのあとを残さない。見わたすかぎり草原は天と連なり、見あげると一輪の月が高くかかっている。